

2021年9月1日

報道関係者 各位

株式会社 Liberaware

## 産業用小型ドローンを開発する Liberaware、 新たに 4.2 億円の資金調達を実施 自律飛行や AI 機能などの強化で、次世代の点検・計測・分析を加速

屋内空間専用の産業小型ドローン IBIS (アイビス) を開発する株式会社 Liberaware (本社：千葉県千葉市、代表取締役 CEO：関 弘圭) は、Bonds Investment Group 株式会社をリード投資家として、凸版印刷株式会社、オリックス株式会社、セントラル警備保障株式会社、みやこキャピタル株式会社、Drone Fund 株式会社を引受先として約 4.2 億円の第三者割当増資を行いました。

これによりシリーズ C ラウンドの資金調達を完了し、累計調達額は 9.7 億円に到達したことをお知らせいたします。



### 【本資金調達の目的】

当社の開発した屋内空間に特化した小型ドローン「IBIS (アイビス)」は、製鉄業や電力業、建設業等における設備の点検、構造物のデータ化において活用が進んでおります。

また、建設現場の施工進捗管理、工場内の定期チェックや倉庫内の在庫管理、屋内施設巡回警備など、自律飛行型ドローンの引合いも増えている他、本年7月には JR 東日本グループと合弁会社「CalTa 株式会社」を設立し、鉄道・インフラ業界のデジタルトランスフォーメーションを促進するための事業展開を図っております。

今回の資金調達にあたっては、金融業、製造業、サービス業と多岐にわたる業種の企業より出資いただいていることが特徴です。様々な業界の株主の力添えをいただきながら、ドローン技術や画像処理技術に磨きをかけ、「IBIS」の増産およびアップデート、自律飛行型ドローンの実用化、AI の開発、海外展開の足掛かり構築を実施してまいります。

<新規投資家>

BIG2 号投資事業有限責任組合 (Bonds Investment Group 株式会社)

凸版印刷株式会社

オリックス株式会社

セントラル警備保障株式会社

<既存投資家>

みやこ京大イノベーション 2 号 投資事業有限責任組合 (みやこキャピタル株式会社)

千葉道場ドローン部 2 号投資事業有限責任組合 (DRONE FUND 株式会社)

<新規投資家コメント>

Bonds Investment Group 株式会社

プリンシパル 濱田 光貴 氏

Liberaware 社は独自の技術を活かした屋内狭小空間インフラ点検企業としてグローバルに進出できるベンチャーであり、国内外で成長市場であるインフラ点検市場において高い競争優位性・参入障壁を築いています。代表の関氏を始め優秀なチームが揃っており、点検現場の死亡事故や災害を防止できるソリューションを通して、本国全土のインフラ老朽化問題を解決できる可能性を秘めた企業です。この度の資本参加を通して当社を支援させて頂く事で、社会課題の解決の推進・貢献に寄与すべく、共に挑戦していきたいと思っております。

※プレスリリース

<https://bonds-ig.com/archives/1457>

凸版印刷株式会社

事業開発本部 戦略投資センター長 朝田 大 氏

次世代のインフラと期待されているドローン分野の中でも、独自の技術・ノウハウにより屋内でのドローンの自律飛行を実現し、屋内点検ソリューションとして事業化している点に魅力を感じ出資させていただきました。

Liberaware 社が持つハード・ソフト両面での技術の広範な可能性に、凸版印刷が持つ技術を掛け合わせ、両社での事業機会の探索、その先の社会課題の解決を行ってまいります。

※プレスリリース

[https://www.toppan.co.jp/news/2021/09/newsrelease210901\\_1.html](https://www.toppan.co.jp/news/2021/09/newsrelease210901_1.html)

オリックス株式会社

執行役 渡辺 展希 氏

Liberaware 社のハード・ソフトの開発力と、屋内施設の生産性・安全性向上に資するサービスに魅力を感じ、今回資本参加いたしました。

当社は、屋内の様々な空間—ボイラー内部など雰囲気温度が高い空間、穀物サイロなど防塵性が求められる空間、駅舎の天井裏などの狭所空間など—の点検に係る時間の短縮・コスト削減・リスク低減と、撮影画像の 3D データ化等により点検品質の向上が図れるドローンの開発技術・サービスを有し、それらとオリックスグループの顧客基盤・ノウハウとのシナジーにより、ドローンによるインフラ点検の社会実装を目指してまいります。

※プレスリリース

[https://www.orix.co.jp/grp/company/newsroom/newsrelease/210901\\_ORIXJ.html](https://www.orix.co.jp/grp/company/newsroom/newsrelease/210901_ORIXJ.html)

セントラル警備保障株式会社  
執行役員 営業本部開発営業部長 阿部 雅志 氏

技術サービス企業を目指す弊社は、従来より最先端のセキュリティサービスの提供に取り組んで参りました。最近では AI 画像解析を搭載した防犯カメラや警備用ロボットでの新たなセキュリティサービスを開始していますが、ドローンは警備業界においても次世代の有望な分野であると考えております。既に、官庁向けアンチドローンや警備用特殊ドローン、高性能カメラを搭載した気球などの販売・レンタルを展開しており、新たに世界トップクラスの産業用小型ドローン「IBIS」を活用した設備点検サービスを開始するとともに、Liberaware 社の技術力をベースに、狭小空間や危険を伴う場所に迅速に進入出来る自律飛行型ドローンを活用した警備サービスに発展させていきたいと考えております。

※プレスリリース

<https://www.we-are-csp.co.jp/2021/09/01/cspdrone20210901.pdf>

### **【産業用小型ドローン IBIS（設備点検型）の概要】**

- ◇サイズ : 191×179×54mm（プロペラガード込み）
- ◇重量 : 185g（バッテリー込み）
- ◇飛行時間：最大 8 分間
- ◇装備類 : LED 照明、防塵用モーター、独自設計のプロペラ 他
- ◇活用シーン：

煙突の中や配管内、ボイラー内部、屋根裏といった人が進入することのできない、もしくは進入すると危険な場所の点検や計測に活用されています。特に足場の設置が必要な現場などでは、安全面・時間面・費用面において大きなメリットを生み出します。今後は、橋梁やエレベーターの内部、大型船舶のバラスタタンクやカーゴホルドの内部等の新たなフィールドでの活用も開拓していきます。



### **【株式会社 Liberaware の概要】**

Liberaware という社名は、ラテン語で「自由な」を意味する“libera”と、「気がつく」を意味する“aware”、そして hardware や software の“ware”を組み合わせたものです。「正しく作る、自由に動かす、社会を変える」をモットーにして、自由な発想でモノづくりに取り組むエンジニア集団です。

- 会社名 : 株式会社 Liberaware（リベラウェア）
- 設立 : 2016 年 8 月 22 日
- 代表 : 関 弘圭（ミン・ホンキュ）
- 資本金 : 160 百万円（資本準備金含まず）
- 本社 : 千葉県千葉市中央区 3-3-1
- 社員数 : 33 名
- 業務内容 : ◇産業用ロボット・ドローンの研究・開発・製造
  - ◇IoT 技術・人工知能を活用したシステム開発
  - ◇映像加工・編集サービス（距離計測、異常検知等）

本件に関するお問い合わせ先

**株式会社 Liberaware**

〒264-0025 千葉市中央区 3-3-1

TEL 043-497-5740

E-mail : [pr@liberaware.com](mailto:pr@liberaware.com)

ホームページ : <http://liberaware.co.jp/>